

はたちの座談会 2022

生涯学習課青少年係
☎(63)8323

Chapter II ～新しい時代の始まり～



1月22日、酒場食堂イナリトナリ（上材木町）を会場に、恒例の「はたちの座談会」が開催されました。
参加したのは市長、教育長と、7人の新成人。1月9日におこなわれた「鹿沼市20祭」への想いや鹿沼市の未来など、和やかな雰囲気での意見交換会となりました。



▲千徳さん
「達成感と
自信につながった」

市長 短い準備期間の中で、企画班の班長としてゼロから決めなくてはならず大変でした。不安な部分もありましたが、積極的に意見を交わしながらみんなで作り上げることができ、とてもいい経験となりました。みんなの支えがあって1つのことを成し得た達成感は、自分たちの大きな自信にもつながったのではないのでしょうか。

山口 短い準備期間の中で、企画班の班長としてゼロから決めなくてはならず大変でした。不安な部分もありましたが、積極的に意見を交わしながらみんなで作り上げることができ、とてもいい経験となりました。

高橋 実行委員のメンバーは初対面同士も多く、コミュニケーションなどで苦労したこともありましたが、みんなが20祭を成功させようという同じ思いで臨んだからこそ、とてもいい祭典になったと思います。

千徳 新型コロナウイルス感染症の影響で実行委員会のスタートが遅れ、いろいろプレッシャーもありましたが、自分たちが頑張ってきたことでたくさんの人を喜ばせることができ、達成感を感じました。

鹿沼市20祭への想い

教育長

コロナ禍で思うように人と会えない分、身近な人や、自分を支えてくれる人がいることなど、つながることの大切さを改めて感じました。そのような気持ちを持つことが、さまざまな逆境を乗り越えていくことにつながるのではないかと思います。

西藤

大学に進学してもオンライン授業が多く、一緒に目標を目指す仲間との交流が少ない中、同じ目標をもつもの同士がつながること、お互いを支え合い目標達成にも力を入れていけるのかなと思いました。



▲阿部さん
「人とのつながりを
再構築することが必要」

コロナ禍を通じて、人とつながることの大切さを改めて感じました。人との交流自体が減っている中、寂しさや孤独を感じることもないよう、今まで以上に人とのつながりを再構築していくことが必要だと思います。

変化のある社会を
どう乗り越えるか

鹿沼に望むこと

牧島

鹿沼を代表する大自然や文化などの魅力は維持しつつ、さらにプラスして新時代にも対応できるようなまちづくりをする必要があると思います。

高橋

交通網の改善や買い物支援など、高齢者にとって住みやすい地域づくりを目指してほしいです。鹿沼秋まつりは屋台をもっていない地域の人でも参加できる取り組みがあると、市全体でより一層楽しめると思います。



▲牧島さん
「新時代にも対応できるまちづくりを」

池澤

スケートボードやバスケットボールなど、外で子どもたちが思いっきり体を動かせる大きな公園がほしいです。外で遊ぶことによつて体の免疫力も上がり体力もついで、プラスになることは多いと思います。

市長

少子高齢化ということで、施設整備という部分では進んでいると思います。ただ、地域内の交通という点ではもっと進う工夫があつてもいいのかなと。要望があるのは認識しているのですが、期待に応えられるようにしていきたいと思つています。



▲西藤さん
「中高生の新しい発想を共有できる場を設けては」

若者が一丸となるためには

阿部

自分が参加しているボランティアでは市外の人が多いので「いちご市」という話題があると、話すきっかけにもなり興味をもつて聞いてくれます。積極的に話題を作ることで鹿沼について考えるきっかけになれば、さらに発展させることができると思います。

西藤

中高生がもっている新しい発想を、行動力のある大学生などと共有できる場を設けることで、より鹿沼市に貢献できるような活動に取り入れられるのではないかと思います。

牧島

大学進学や就職で市外に出てしまう若者が多いので、通勤圏へのアクセスが便利な点などをもつとアピールし鹿沼に住んでくれる若者を増やすことが大切だと思います。

市長

今の時代、話題作りは重要であり、若者の感性を取り入れながら、まちのPRやイメージアップにつなげていければと思います。

感謝を伝えたい人・20歳の抱負

山口

両親はもちろん、自分が幼い頃、面倒を見てくれた地域の方々にも感謝したいです。今後は、ボランティア活動を通じて、地域に貢献していきたいです。

千徳

地域に恩返しができる大人になりたいです。その一歩として、学生団体を立ち上げ、SNSやイベントの企画を通じて鹿沼の魅力を伝える活動を始めました。自分が大好きな鹿沼のファンを増やしていきたいです。

池澤

将来の夢のために、国家試験の勉強といるいろいろな人の「コミュニケーション」の取り方を学んでいきたいです。

教育長

成人を迎えた今、当たり前だと思つていたことが当たり前ではなくなり、実はそれが「ありがたい」と感謝することだったと気付かされた人も多かったのではと思います。その気持ちをどう伝えて、どうパワーに変えていくのが大事だと感じました。

市長・教育長から

佐藤市長

失敗から学ぶことはたくさんあります。失敗を恐れることなく、楽しみながらいろいろなことに挑戦してほしいです。



中村教育長

いろいろな考え方の人たちとのつながりを大切に、支え合いながら、幸せな未来を築いてほしいです。

「イナリノトナリ」店長の瀧口さんから新成人へメッセージ

今頑張っていることに対して、「イヤだ」「ツライな」と感じる時もあると思います。それをただ苦労と思うのではなく、その経験全てが勉強だったと気付く時が、いつかくるはずですよ。

いろいろなことにチャレンジができる「今」を楽しんでください。

